

4月は新聞社が紙面のリニューアルをする場合が多いので、各新聞から目が離せません。朝日新聞では、日曜朝刊にコラム「日曜に想う」が新設され、土曜別刷り「be」で「うたの旅人」が終了して「NIPPON 映画の旅人」が新たに始まるなどしました。天声人語の筆者も1人が交代したようです。

さて、新聞は日々の出来事の実事、いわゆるニュースと、意見・論評を伝えることを主としていますが、様々な知識や情報、生活のヒントなども載せています。その代表が生活面でしょう。「くらし」面などと名乗っている新聞もあります。身近な生活の知恵や情報が満載されているほか、病気や介護などの問題も扱われます。日常の話題を取り上げ、社会の制度や仕組みを暮らしや家庭の視点から解説したり、問い直したりもします。

「花見のスポット」「梅雨の快適な過ごし方」「おいしい梅酒の作り方」「食中毒に注意」「受験生の夜食に工夫」「入試の日のお弁当は」などは、実際に記事になったテーマです。この4月に入ってから、「防犯 『泥棒目線』で歩いたら…」「風疹から赤ちゃん守れ」「魚料理作らない理由は…」「緑のカーテン、上手に作るには？」など、日々の生活に役立つ記事がとても多くあることが分かります。

記事の書き方を社会面などのニュースと比べてみると、ニュースは5W1Hを基本に書かれています。生活面では、「いつ(When)」「どこで(Where)」などの要素がない記事が多く見られますので、子どもたちに確認させるとよいでしょう。また、ある記事の中で大事だと思える部分(記事の4分の1程度)を蛍光ペンで塗らせてみましょう。ニュース記事は主に前半部分が塗られますが、生活面の記事は偏りなく塗られます。塗られた部分をつなげると、記事の要約になります。読解力を身に付けさせる上で、とても大事です。

(鈴木伸男 全国新聞教育研究協議会顧問)